

3 免疫抑制剤服用による血中白血球分画への影響

腎臓病医療センター臨床検査室¹ 同腎臓外科²
○二ツ山和也¹, 林 哲男¹, 寺岡 慧²

【目的】白血球数は細菌感染や熱傷で増加し、抗癌剤の投与等で減少すると言われている。また、臓器移植でも過剰な免疫抑制剤投与による白血球数の減少を経験する。今回われわれは、腎移植直後に患者の白血球数の再検値が前回値と大きく異なった症例を経験し、免疫抑制剤の服用が関与しているのではないかと考え、服用後の経時的な変動を検討したので報告する。

【対象と方法】当施設で施行された生体腎移植患で、免疫抑制療法としてシクロスポリン (CYA) + ミコフェニル酸モフェチル (MMF) + メチルプレドニゾロン (MP) の3剤が併用されている20症例を対象とした。移植後1週目、2週目、3週目、4週目に免疫抑制剤の服用前と服用後30分後、1時間後、2時間後、3時間後、4時間後に採血し、白血球総数、好中球数、リンパ球数、単球数の測定を行い、経時変化と日差変動を解析した。

【結果】腎移植後1週目の白血球総数、好中球数は免疫抑制剤服用後徐々に増加し、4時間後に最も高値を示した。2週目、3週目も同様の傾向であったが、その変動幅は減少し、4週目にはほとんど変化が見られなかった。リンパ球数と単球数は白血球総数、好中球数と反対の傾向となり、服用後徐々に減少し、4時間後に最も低値を示したが、2週目、3週目と経過と共に減少の変動幅は減少し、4週目ではほとんど変化が見られなかった。

【考察】今回の検討で免疫抑制剤は白血球総数に影響与えることが証明された。しかし、この変化は移植早期だけの現象で安定期には見られない。従って、移植直後に白血球総数算定を目的とした採血を実施する際は免疫抑制剤服用の有無を確認する必要があると思われる。また、今回の対象は3剤併用症例であり、このような現象を惹起する薬剤の特定には至らなかったことが今後の検討課題と思われた。

4 外来棟採血室の採血状況について

中央検査部採血室 内分泌内科¹

○植原るり子, 高津和子, 井上美幸, 竹田昌弘, 杉本道子, 池田紀子, 鷺真由美, 山田敦子, 平塚江里子, 斉藤典子, 菊谷光, 庄司牧子, 宮内節子, 坂東千明, 前原通代, 北山淳子, 新井浩美, 江川典子, 岡田典子, 長谷川美紀, 高橋明美, 福永美奈子, 瀬川まゆみ, 小田桐恵美¹

◎ 中央検査部採血室では、外来棟新設を期に外来棟全診療科の採血の他、持参検体受付、糖・食事負荷試験、2hCCr、血小板凝集能・粘着能採血、出血時間検査、予約採血管発行業務を行っている。患者様側、採血者側各々の視点に立って業務を検討することにより、質の向上、維持に繋がたいと考え、稼動状況を解析したので報告する。

- ① 2005年1月から10月までの外来患者数は1日平均約3700人、その30%近くは採血室で採血を実施している。
- ② 9:30~11:00にピークがあり、待ち時間は20分を超えることがある。2005.1.8~1.14は採血患者数が1200人を超え、待ち時間が40分となった。
- ③ インシデント、アクシデントレポートの事例では、採血管種間違いが多かった。
- ④ 連続採血と疲労との関わりを解析した結果は、1日を通して見た場合では2hr以上連続採血した場合にインシデント、アクシデント報告が多く、1週間を見た場合では有意な傾向は認められなかった。
- ⑤ 患者様から訴えのあった採血トラブルについて2004年4月から2005年10月までで末梢神経損傷が疑われた事例は3例、腫れ、漏れなどによる痛みの訴えは直接受付に申し出があったもので49例だった。
- ⑥ 受付でオーダー確認をしなければならない件数は1日平均100件で、その多くは医師へのオーダー確認、PT検査・尿検査の新規オーダー、日付変更、ダブリの削除である。

今後

- ・ 待ち時間が30分を超えた場合、対策としては当日オーダーをケアルーム依頼にし、採血支援をお願いしている。
- ・ 採血管本数の見直しを検査側に提案することや確認事項の煩雑さはシステムを利用できないか再度検討する。
- ・ 採血トラブルに対しては知識、技術面の教育が重要で、採血行為が痛みを伴う肉体的、精神的苦痛を与える行為であることを意識し、接遇では患者様の訴えに対し真摯な態度が信頼性に繋がると考える。
- ・ 採血前の確認作業が多いことに対し、診療側にオーダーの徹底を促すなど積極的な働きかけをする。